

蛍光ディファレンシャルディスプレイ法を用いた高 血圧成因遺伝子の研究

著者	古川 健治
著者別表示	Furukawa Kenji
雑誌名	平成14(2002)年度 科学研究費補助金 若手研究(B) 研究概要
巻	2001 2002
ページ	1p.
発行年	2016-04-21
URL	http://doi.org/10.24517/00061212



[◀ Back to previous page](#)

蛍光ディファレンシャルディスプレイ法を用いた高血圧成因遺伝子の研究

Research Project

Project/Area Number	13770346
Research Category	Grant-in-Aid for Young Scientists (B)
Allocation Type	Single-year Grants
Research Field	Circulatory organs internal medicine
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	古川 健治 金沢大学, 医学部附属病院, 助手 (40324123)
Project Period (FY)	2001 - 2002
Project Status	Completed (Fiscal Year 2002)
Budget Amount *help	¥1,700,000 (Direct Cost: ¥1,700,000) Fiscal Year 2002: ¥900,000 (Direct Cost: ¥900,000) Fiscal Year 2001: ¥800,000 (Direct Cost: ¥800,000)
Keywords	ディファレンシャルディスプレイ法 / 高血圧 / 遺伝子

All

Research Abstract

本研究の目的は、ヒト高血圧症の発症に関わる遺伝子や、血圧調節に関与する未知の遺伝子を探査することである。家系内に高血圧発症者を持ち、高血圧を発症した患者より検体を採取し、total RNAを用いて蛍光ディファレンシャル法(FDD法)にて比較を行った。3種のアンカープライマーと25種のアービタリープライマーを用いてFDD法を行った結果、高血圧患者において発現量が増大しているcDNA断片が10個と、発現量が低下しているcDNA断片が5個得られたため、これらのcDNA断片を候補cDNA断片としてさらに解析をすすめた。はじめに候補cDNA断片の発現異常を確認するため、ノーザンブロットハイブリダイゼーションを行ったところ、高血圧患者において発現量が増大している候補cDNA断片10個のうち2個で発現異常が確認された。また、発現量が低下している候補cDNA断片5個はいずれも発現異常が確認されなかった。次に、高血圧患者において発現量が増大している候補cDNA断片に対し、配列を決定するためシークエンスを行った。得られた配列は未知のものであり、この候補cDNA断片の全長を得るため、クローン化し、レース法を用いて全長の配列を得た。これらの候補cDNAの発現異常が、通常の高血圧患者において認められる例があり、これを解析中である。また、既知の高血圧に関する遺伝子座位と比較するため、FISH法を用いてこの候補cDNAの遺伝子座位を検索中である。今後、アービタリープライマーの数を増やしさらに新たな候補cDNA断片の探索を行う予定である。また、症例数を増やし、新たな候補cDNA断片の探索を行う予定である。

Report (2 results)

2002 Annual Research Report

2001 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-13770346/>

Published: 2001-03-31 Modified: 2016-04-21